

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：24301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K16720

研究課題名（和文）19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク

研究課題名（英文）The networks that sustained Western interests in Japanese art from the end of the 19th century to early 20th century

研究代表者

山本 真紗子（Yamamoto, Masako）

京都市立芸術大学・芸術資源研究センター・日本学術振興会特別研究員（RPD）

研究者番号：70570555

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワークを史料上から明らかにすることを目的とした。まず京都の美術商・池田清助や稲田賀太郎の海外進出について、山中商会と比較することで、海外進出の時期別の輸出美術商の特色や進出成功・失敗の関連について考察した。池田の英国進出のパートナーだったトーマス・J・ラーキンについては、彼の経歴や、ラーキンのギャラリーが当時のロンドンの日本美術愛好の拠点の一つだったことを明らかにした。また明治期の外国人旅行者の京都での立寄先を調査し、美術商の外国人向陳列販売場の開設が東山地域の変化と関係していることを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワークを史料上から明らかにすることを目的とした。申請者がこれまで明らかにしてきた京都の美術商・池田清助のビジネスパートナーであるトーマス・J・ラーキンの英国帰国後の活動などについて史料からまとめ、英国での日本美術愛好史研究に新知見を与えた。また、研究期間開始後海外調査が難しくなったことから、京都での輸出美術商の活動に着目することに計画を変更し、外国人旅行者の訪問先や東山の開発とも関連付けつつ、美術商たちが当時の観光や地域経済などに与えた影響について論じた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the networks that help sustain Western interests in and love of Japanese art from the end of the 19th century to early 20th century. First, this study focuses on the overseas expansion of Kyoto-based art dealers Ikeda Seisuke (1839-1900) and Inada Hogitaro (1869-?). The study has also revealed the activities in the UK of Thomas J. Larkin (1848-1915), Ikeda's partner in his British expansion. Larkin's gallery was one of the first focal points for the introduction and reception of Japanese art in London at the time. Furthermore, the study also examines the destinations of foreign visitors in Kyoto during the Meiji period, as well as the relationship between the changes in the Higashiyama area and the opening of art dealers' display and sales sites.

研究分野：日本文化史

キーワード：美術商 近代 日本 工芸 京都

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代より、北澤憲昭や佐藤道信らを筆頭に、我が国における近代「日本美術」概念の形成過程についての研究が盛んになった。申請者は先行研究を踏まえつつ、これまで研究対象として手薄であった京都地域を中心に調査をおこなってきた。明治政府(行政)や東京を中心に語られがちな近代「日本美術」概念の形成と受容を、「京都」という地方での受容に初めて着目し、「美術商」という民間・草の根の動きを軸に考察していることも、本研究の独創的な点である。

申請者のこれまでの調査・研究では、米英で主に活動していた東洋美術商・山中商会と、京都美術倶楽部初代会長であった池田清助(初代)を対象に調査をおこない、両者の主たる経歴や企業活動を、日本国内に残る資料と遺族からの情報提供により明らかにした(著書『唐物屋から美術商へ 京都における美術市場を中心に』2010年として刊行済)。また、2011年~2012年度にかけては科学研究費(若手(B))採択課題として、池田清助の事績に関し、国外調査を含む調査をおこなってきた。

## 2. 研究の目的

本研究では、明治~大正期(1870~1930年ごろ)の欧米における日本人美術商の活動を研究対象に、現地調査、新出資料の発掘を中心とした調査・分析を通して、日本人美術商が欧米での日本美術受容や日本美術研究に果たした役割や、日本と欧米をつなぐ、日本美術商・コレクター間の関係やネットワークを明らかにしようとした。

## 3. 研究の方法

申請時の計画では、日本人美術商(池田清助・稲田賀太郎)のロンドンやパリでの活動について調査をおこないたいと考えていたため海外での調査を計画していた。しかし、私事により2017年度と2019年度に一時的に研究活動を中断する必要が生じ、それともなって海外への渡航が難しくなってしまった。さらに研究活動再開後の2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の流行が発生してしまい、海外はもとより国内での調査でも聞き取り調査などは実施しがたいこととなってしまった。そのため、ウェブ上のデータベースで公開されている資料や、国内での文献調査への切り替えなどをおこない、調査の主なターゲットも国内での美術商の活動に変更している。これまでに入手できた調査資料に加え、海外資料の閲覧できるウェブサイトやデータベースを利用して得た当時の史料を合わせて、調査対象の美術商の活動の一端を明らかにした。また、国内での文献調査に計画を切り替え、京都での活動を中心に資料調査を実施し、当時の東山の開発などと重ね合わせて考察をおこなった。

## 4. 研究成果

上記のような事情により、当初予定していた美術商の海外での活動を追うことは難しくなってしまったが、国内の活動を中心に調査をおこなった。池田清助や山中商会の活動については、2016年にドイツで開催された、18世紀~20世紀の欧米での非ヨーロッパ圏の美術工芸品のマーケットやコレクションをテーマとした国際シンポジウムで、近代日本の美術商の欧米進出や日本の工芸品輸出に関する報告(注1)のなかで、時代別の美術商の活動の特徴や、池田の海外進出と失敗の理由、山中の海外進出の成功の要因の分析をおこなった。報告の内容は後日同シン

ポジウムを活字化した論文集に執筆した（注2）。

次に、池田の英国進出の際パートナーとなったトーマス・J・ラーキン(Thomas Joseph Larkin)の英国での活動について調査をおこなった。British Newspaper Archive などを用い関連する記事を抽出し、彼の経歴や運営したギャラリー（the Japanese Gallery）の展覧会の情報などを得ることができた。それらをもとに、ラーキンの経歴の整理をおこない、ラーキンとギャラリーが当時のロンドンでの日本美術紹介や受容の最初期の拠点の一つとなったのではないかと考察した（注3）。

最終年度は、外国人向けの美術工芸品販売に関して、京都の山中商会についての聞き取りや資料の閲覧などを行った。また、外国人旅行者や外国人貴賓の旅行記などをもとに、京都の美術商への訪問や美術工芸品購入などについて調査をおこなった。その内容を2022年度より日本学術振興会特別研究員として開始した調査の内容とあわせて、明治時代の京都・東山地域の変化と関連付けて論じ、オンライン実施の研究会で発表した（注4）。発表内容は2022年春に論文として寄稿する予定である。なお、関連の成果として、山中商会について取り上げた雑誌記事への協力（注5）と、明治時代の外国人旅行者による美術工芸品購入についての一般向け講座（注6）も行った。

（注1）Masako Yamamoto Maezaki, "Innovative Strategies in Dealing Japanese Art: Ikeda Seisuke, Yamanaka & Co. and their Overseas Branches(1870s-1930s)", International Symposium "All the Beauty of the World The Western Market for non-European Artefacts (18th-20th century)" Bauakademie, Berlin, Germany, 2016年10月15日。

（注2）Masako Yamamoto Maezaki "Innovative Trading Strategies for Japanese Art: Ikeda Seisuke, Yamanaka & Co. and their Overseas Branches(1870s-1930s)", by Bénédicte Savoy, Charlotte Guichard, and Christine Howald (Ed.), *Acquiring Cultures: Histories of World Art on Western Markets*, Berlin: De Gruyter, pp.223-238, 2018年。

（注3）山本真紗子「美術貿易黎明期の京都とロンドン—美術商池田清助とトーマス・J・ラーキン」並木誠士編『近代京都の美術工芸 制作・流通・鑑賞』思文閣出版、pp.271-292、2019年。

（注4）山本真紗子「明治期の東山の変化と美術商の活動」京都大学人文科学研究所・第33回「近代京都と文化」研究班、オンライン、2021年10月23日。

（注5）山本真紗子「海外進出以前の山中商会」(インタビュー)『目の眼』2021年12月号、p.48。

（注6）山本真紗子「明治時代・外国人たちの日本美術収集」大津市歴史博物館 れきはく講座・日本フェノロサ学会提供講座、大津市歴史博物館、2022年3月24日。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山本真紗子	4. 巻 33
2. 論文標題 明治工芸研究のさらなる深化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民族藝術	6. 最初と最後の頁 234-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Masako Yamamoto Maezaki
2. 発表標題 Innovative Strategies in Dealing Japanese Art: Ikeda Seisuke, Yamanaka & Co. and their Overseas Branches (1870s-1930s)
3. 学会等名 International Symposium "All the Beauty of the World The Western Market for non-European Artefacts (18th-20th century)" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本真紗子
2. 発表標題 明治期の東山の変化と美術商の活動
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所・第33回「近代京都と文化」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ed. by Savoy, Benedicte / Guichard, Charlotte / Howald, Christine (Masako Yamamoto Maezaki)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 DE GRUYTER (Belrin)	5. 総ページ数 316
3. 書名 Acquiring Cultures: Histories of World Art on Western Markets	

1. 著者名 並木誠士編（山本真紗子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 『近代京都の美術工芸 制作・流通・鑑賞』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>"Western Market for non-European Artefacts"  <a href="https://lisa.gerda-henkel-stiftung.de/section_4_global_players?nav_id=6610">https://lisa.gerda-henkel-stiftung.de/section_4_global_players?nav_id=6610</a></p> <p>山本真紗子「明治時代・外国人たちの日本美術収集」大津市歴史博物館 れきはく講座・日本フェノロサ学会提供講座、大津市歴史博物館、2022年3月24日</p> <p>山本真紗子「海外進出以前の山中商会」（インタビュー）『目の眼』2021年12月号、p.48</p>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------